

**ライフエンディングの最新情報をお届けする『燦ホールディングス Heartful Vol.11』を発行  
コロナ禍で高まるグリーフケアへのニーズ 遺族の悲しみに寄り添い 20年  
遺族サポート「ひだまりの会」を葬儀社が運営する意義とは**

公益社などの葬儀社を傘下に持ち、終活から葬儀後までのライフエンディングのトータルサポートを提供する、燦ホールディングス株式会社(東京本社:東京都港区、大阪本社:大阪市北区、代表取締役社長:播島 聡)は、『燦ホールディングス Heartful Vol.11』を発行します。

現代社会においてニーズが高まるグリーフケア。昨今自治体などでも、グリーフケアの取り組み事例が増え、その活動の輪は広がりをみせています。今回の『燦ホールディングス Heartful Vol.11』では、葬儀社が取り組むグリーフケアの先駆的な存在である、燦ホールディングスグループが運営する「ひだまりの会」を紹介します。

〈燦ホールディングス Heartful 概要〉 ※Vol.7より名称変更、Vol.1~6は「公益社 Heartful」として刊行  
◇発行日: 2024年1月(Vol.11) ◇発行: 燦ホールディングス ◇価格: 無料  
◇バックナンバー: Vol.1「ライフエンディング徹底総括」

- Vol.2 「with コロナ時代 必要性の高まるグリーフケア」
- Vol.3 「遺体衛生保全技術 エンバーミング」
- Vol.4 「コロナ禍の長期化で、葬儀への考え方に変化」
- Vol.5 「後悔をしないために知っておくべき葬儀費用の知識とは」
- Vol.6 「ライフエンディング コロナ禍をきっかけに変化したこと、変化しなかったこと」
- Vol.7 「新型コロナウイルスの流行で、「終活」への考えに変化」
- Vol.8 「終活(ライフエンディングプラン)は今が転換期 “不安だらけの老後ではなく、希望に満ちた未来に”」
- Vol.9 「過去5年以内に葬儀を執り行った2,000名のうち70%が家族葬を選択  
家族葬へのニーズが高まる中で生まれた新たなスタイル」
- Vol.10 「未知のウイルス“新型コロナウイルス”との1000日間の戦い  
故人との最後のお別れをエンバーミングで叶えるために」



〈燦ホールディングスとは〉

1932年に「株式会社公益社」として創業、2004年持株会社制への移行に伴い、燦ホールディングスに商号変更。グループには「株式会社公益社」(持株会社制への移行時に会社分割により新設)、「株式会社葬仙」、「株式会社タルイ」、「株式会社東京セレモニー」の葬祭事業3社および葬祭サービスに必要な機能を提供する「エクセル・サポート・サービス株式会社」、ライフエンディングサービスのポータルサイトを運営する「ライフフォワード株式会社」から成り、葬儀を中心としたライフエンディングサポート事業を展開しています。また、2023年3月から家族葬に特化した新ブランド「ENDING HAUS」の全国展開を開始しました。1994年に葬儀会社として初めて株式を上場(当時の大証新二部)。現在は、全国に約5,000社あるといわれる葬儀会社の中で数少ない東証プライム上場企業です。

【燦ホールディングスグループ】

- ・燦ホールディングス株式会社 <https://www.san-hd.co.jp/>
- ・株式会社公益社 <https://www.koekisha.co.jp/>
- ・株式会社葬仙 <https://www.sousen.co.jp/>
- ・株式会社タルイ <https://www.tarui365.co.jp/>
- ・株式会社東京セレモニー <https://tokyo-ceremony.co.jp/>
- ・ライフフォワード株式会社 <https://life-forward.co.jp/> <https://www.eranda.jp/>

〈新葬儀ブランド〉 ※2023年3月から家族葬に特化したブランドを展開中

- ・エンディングハウス <https://www.koekisha.co.jp/endinghaus>

**燦ホールディングス Heartful Vol.11の本紙やバックナンバーをご希望の方は下記の連絡先へお申込みください。**

〈本件に関するお問合せ先〉

燦ホールディングス株式会社/株式会社公益社 広報代理 (株)インテグレートコミュニケーションズ  
担当: 村山 (amurayama@integrate-com.co.jp)、TEL:03-5464-2046

# SAN HOLDINGS

燦ホールディングス ハートフル

# Heartful



燦ホールディングス株式会社  
SAN HOLDINGS

## コロナ禍で高まるグリーフケアへのニーズ

## 遺族の悲しみに寄り添い20年

# 遺族サポート「ひだまりの会」を葬儀社が運営する意義とは

現代社会においてニーズが高まるグリーフケア。昨今自治体などでも、グリーフケアの取り組み事例が増え、その活動の輪は広がりを見せています。今回は、葬儀社が取り組むグリーフケアの先駆的な存在である、燦ホールディングスグループが運営する「ひだまりの会」を紹介します。

### なぜ葬儀社がグリーフケアに取り組むのか

もともと葬送儀礼には、遺族の悲しみを癒すグリーフケアの役割がありました。葬儀に様々なプロセスがあるのは、故人の死を受け入れ、悲しみを乗り越えるためともいわれます。また、核家族化が進む前は、葬儀は地域の人々とともに挙行する儀式であり、地域の人々との交流も遺族の心の支えになっていました。

現代社会の葬儀は家族中心に変化したことで、家族葬が台頭し、葬儀のコンパクト化により、人と人との触れ合いで悲しみを癒す機会が希薄になっています。

そのような傾向が顕著になり始めたころ、葬儀を終えた後に「悲しみ」や「辛さ」を訴えるご遺族の存在に気づき、葬儀後も寄り添うことができないかといった考えのもと、公益社で葬儀をあげられた遺族を対象に2003年に『ひだまりの会』を設立しました。

昨今は、グリーフケアの取り組みをうたう葬儀社が増えてきましたが、燦ホールディングスグループはなかでもいち早く取り組んできました。

### 遺族サポート“ひだまりの会”が20年続いた理由

2003年にスタートした『ひだまりの会』が、20年続いたのは、グリーフケアを必要とする人が、常にいらっしゃったからと言えます。今までの参加者は、1,000名以上となっています。

また、設立当時から、グリーフケアの研究者や専門家と協力・相談をして運営したことも大きな要因です。

とはいえ、当時はまだまだ、グリーフケアの取り組みについての事例も少なく、専門の先生方とともに、試行錯誤を繰り返しながら会を運営してきました。

これまでの実績により、『ひだまりの会』に携わるスタッフは、講演会への登壇や、グリーフケアを必要とする介護者、看護師などへのセミナーなども実施し、活動の輪が広がっています。

### コロナ禍の影響と変化

コロナ禍が落ち着いた現在、地方自治体でグリーフケアの取り組みを開始したといったニュースをよく見るようになりました。グリーフケアに大切なのは、自身の悲しみに共感してくれる人とのコミュニケーション



です。コロナ禍は人と会うことがままならない状況を引き起こし、悲嘆に苦しむ人を救いづらい状況を生み出しました。

『ひだまりの会』は、2020年9月からオンラインによる開催を試みました。最初はオンライン会議システムの動作にてこずる人もいましたが、それも次第に慣れ、「コロナの感染リスクがない」「地域に関係なく繋がれる」「移動なくすぐに参加できる」などオンラインだからこそその良さを見出すようになってきました。

対面による定例会が再開できるようになった今、月1回だった定例会は、対面の日と、オンラインの日で2回に増えました。対面の開催は東京でも実現し、オンラインの回では全国どこからでも参加可能になりました。

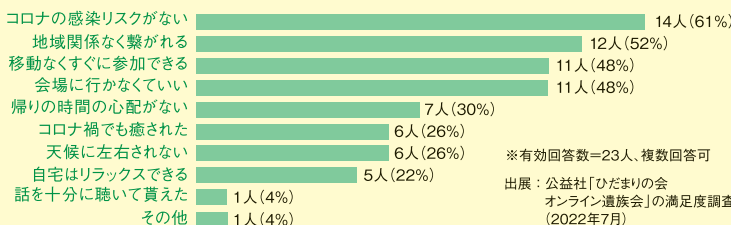
この結果は、グリーフアンドビリーブメント学会でも発表し、高い評価を得ることができました。

コロナ禍だからといって死別の悲しみに苦しむ人は待ってくれないといった現実を知る葬儀社だからこそ、取り組めたことと言えます。

### グリーフケアとは…

大切な人を喪失した方、あるいはこれから喪失する方に対し、喪失から回復するための喪(悲哀)の過程を促進し、喪失により生じるさまざまな問題を軽減するために行われる支援

### オンライン遺族会の良い点



プロフェSSIONAL

# 大切な人を亡くされた悲しみに寄り添いたい 誰でも安心して参加できる『ひだまりの会』を目指して

『ひだまりの会』の運営は、公益社のエンパーマーやカスタマーサービス部のスタッフが担当しています。  
今回は、2015年から運営を担当しているエンパーマーにインタビューしました。

## なぜエンパーマーが『ひだまりの会』の運営を?

エンパーミングは、ご遺体を生前のお元気だったところのお姿に近づける技術です。  
交通事故で最後に故人の顔を見ることができなかった、長い闘病生活でひどくやつれてしまったなど、安らかな顔の故人と最後のお別れが出来ないことは、残された人たちの気持ちに大きな影を落とすことがあります。

そういった観点から、エンパーミングはグリーフケアとの深い関係性があるため、エンパーマーも『ひだまりの会』の運営を担当しています。

私は、エンパーマーの仕事を通して、本格的にグリーフケアを学びたいと考え、仕事の傍ら、上智大学 グリーフケア研究所に2年間通いました。

そういった背景から、『ひだまりの会』の責任者から声をかけていただき、2015年から運営を担当しています。

## 業務内容と、注力していること

『ひだまりの会』は月2回、第3・4土曜日に定例会を開催し、毎回10～20名が参加しています。

定例会は、「専門家による講演」「分かちあい」「癒しの時間」の3つのプログラムで構成されています。

私の主な業務は、この定例会の年間計画と当日の運営、参加者へのフォローです。年間計画には、講演をしていただく専門家や、癒しの時間に実施する音楽会の奏者、朗読をくださる方の選定とコーディネーションも含まれます。

『ひだまりの会』への参加者は、みなさん大切な人を亡くしたことは共通しているものの、悲しみの深さやその状況は多様です。そういった一人ひとりの気持ちに寄り添いたいと考えています。

## 今後のグリーフケアの取り組みについて思うこと

『ひだまりの会』のスタッフは、深い悲しみに苦しむ方を助けたいという熱い思いを持って運営に取り組んでいます。この思いをもっと多くの人に広めたい、もっとグリーフケアのことを知ってほしいと思っています。

亡くされた当時は勇気がなく、参加できなかった方でも、何かのきっかけで数年後に参加されることがあります。つくづく、深い悲しみは時間が解決してくれるものではないということを実感しています。

多くの方が安心して参加できるような会の運営を心掛けていきたいと考えています。



ひだまりの会に参加された遺族の前で講演をする安西さん

### “ひだまりの会”当日のスケジュール

- 8:30 出社
- 9:00 準備 (会場セッティングやパソコン準備、グループ分け等)
- 11:00 スタッフミーティング
- 11:30 休憩
- 12:30 先生方とミーティング、ご遺族のお出迎え
- 13:00 「ひだまりの会」開始、挨拶
- 15:30 終了 ご遺族のお見送り
- 15:40 スタッフミーティング ケアカンファレンス
- 16:30 社内スタッフミーティング
- 17:45 片付け、アンケートチェック・入力
- 18:30 退社

### オフタイムのこだわり

1日を締めくくる夕食は好きなものを好きなだけ食べ、その日に起こったことは、その日のうちにリセットをすることを心掛けています。



安西 涼子(あんざい りょうこ)

エンパーマー/IFSA認定スーパーバイザー、ひだまりの会/産業カウンセラー  
エンパーマーとして勤務する傍ら(経験13年)、2015年より『ひだまりの会』のスタッフとして傾聴に携わる。  
グリーフケアの学会での発表や、医療従事者向けにグリーフケアのセミナーも行う。

## 燦ホールディングス グループとは

1932年に「株式会社公益社」として創業、2004年持株会社制への移行に伴い、燦ホールディングスに商号変更。グループには「株式会社公益社」(持株会社制への移行時に会社分割により新設)、「株式会社葬仙」、「株式会社タライ」の葬祭事業3社および葬祭サービスに必要な機能を提供する「エクセル・サポート・サービス株式会社」、ライフエンディングサービスのポータルサイトを運営する「ライフフォワード株式会社」から成り、葬儀を中心としたライフエンディングサポート事業を展開しています。また、2023年4月から家族葬に特化した新ブランド「ENDING HAUS」の全国展開を開始しました。1994年に葬儀会社として初めて株式を上場(当時の大証新二部)。現在は、全国に約5,000社あるといわれる葬儀会社の中で数少ない東証プライム上場企業グループです。

<https://www.san-hd.co.jp/>

## シニア世代とご家族の人生によりそい、ささえる ライフエンディングパートナー

